

- 1 大会期日 平成28年7月27日(水)～29日(金)

- 2 大会会場 全体会 アスティとくしま
分科会 アスティとくしま・徳島グランヴィリオホテル・阿波観光ホテル
ザ グランドパレス・パークウェストンホテル・
ホテルクレメント徳島・徳島県教育会館

- 3 内 容
 - (1) 7月27日 12:00～16:30
 - ・受付 12:00～
 - ・郷土芸能紹介 12:30～13:00
阿波踊り
 - ・開会行事 13:00～14:00
 - ・シンポジウム 14:00～16:30
テーマ 郷土への誇りをもち 人との関わりを深め たくましく生き抜く
子どもの育成
コーディネーター 阪根 健二(鳴門教育大学大学院 教授)
パネリスト 浅田 和伸(文部科学省大臣官房審議官)
パネリスト 高橋 博義(神山町教育委員会教育長)
パネリスト 松浦 素子(本家松浦酒造場 代表取締役)

概要

○浅田和伸氏は、「人とつながる力」について、どうしたら人とうまくつながることができるのか、それは、我慢すること、人の気持ちを想像することを、子どものうちから学ぶ(教える)事が必要である。

「たくましく生きる」について、今の子どもは、どんな未来を生きるのかを考える必要がある。教育は、現在ではなく、20年後・30年後の生きる力を育てることが大切になる。大人の過去の常識を押しつけてはいけない。

○高橋博義氏は、人口減少と人づくり(子どもの育成)について、地域興しの中で、まち、人、仕事づくり戦略として子どもの育成を行っている。

たくましく生きる・困難に立ち向かうためには、小さいうちから色々な経験をすること、子ども達は情報は入るが実体験がないので、成功体験や失敗体験を学校や家庭でさせることが大切である。

○松浦素子氏は、たくましく生きるためには、まず、感謝の心を持つこと、苦難を新たなチャレンジと考えること、事実と感情をしっかりと区別する事が大切である。事実は変えられないが、それに対する感情部分を変えることが可能であり、前向きに進むことができる。

(2) 7月28日 9:00～16:30

- ・受付 9:00～
- ・第1A分科会(1) 9:30～12:30

「教育課程に関する課題」

地域連携及び学校間連携による特色ある学校づくりへの教頭の関わり
～地域連携担当教職員(地域連携教員)の活用と小中一貫教育の推進を通して～
提言者

栃木県佐野市小中学校教頭会 佐野市立城東中学校 谷 直人

- ・第1A分科会(2) 13:30～16:30

町あげて特色ある教育課程の編成に取り組む
～ALL四万十・三原～

提言者

高知県四万十市・三原村教頭会 四万十市立東山小学校 島田 敏和
四万十市立中村小学校 濱田 明大

助言・指導者

札幌市立屯田中央中学校 校長 小野 寺正
徳島県教育委員会学校教育課 指導主事 阿部 敏和

(3) 7月29日 8:30～12:00

- ・受付 熊本地震報告 8:30～ 9:00
熊本県益城町立広安西小学校 教頭 田中 壮介
- ・研究のまとめ 9:00～ 9:30
- ・記念講演 9:30～11:30

演題 「そうだ、葉っぱを売ろう」
～居場所と出番づくり～

講師 横石 知二 氏

(株式会社いろどり 代表取締役)

- ・人は誰でも主役になれる。
- ・誰にだって居場所と出番がある。
- ・人は自分に役割があることが何よりもうれしい。
- ・舞台(環境)の作り方が9割
好きなこと 認められたい あなただけよ 自慢できること
- ・いろどり社会をつくる
地域で仲間とともに好きなことをして稼ぐ
新しいコミュニティ
- ・今までのやり方でいいという感覚を捨てる
仕組みをつくる
情報を伝える
需要を拡大する

価値を高める

- ・負の連鎖から抜け出す
おもしろい→プラス思考→いい流れを呼び込む
- ・人間力が発揮できる3つの要因
出番 評価 自信
- ・つながる糸を大切に
家族 仕事 名誉 お金 遊び
- ・日常生活習慣で大切なこと
時間を守る習慣
掃除をする習慣
約束を守る習慣

- ・閉会行事 11:30～12:00

4 所感

1日目のシンポジウム「郷土への誇りをもち 人との関わりを深め たくましく生き抜く子どもの育成」では、『「人とつながる力」について、どうしたら人とうまくつながることができるのか、それは、我慢することであり、人の気持ちを想像することを、子どものうちから学ぶ（教える）事が必要である。また、「たくましく生きる」について、「今の子どもは、どんな未来を生きるのか」を考える必要がある。教育は、「現在ではなく、20年後・30年後の生きる力」を育てることが大切になる。大人の過去の常識を押しつけてはいけない。』という文部科学省大臣官房審議官浅田和伸氏の言葉が心に残った。

2日目の第1A分科会では、午前と午後に1つずつの提言が行われ、各県の教頭先生方との地域連携や小中連携、教育課程の編成などについての情報交換を行ったことがとても印象に残った。県ごとにそれぞれ特徴はあるが、各校における学校課題の解決に向けた取り組みを確認したことが大変有意義であった。

3日目の記念講演「そうだ、葉っぱを売ろう～居場所と出番づくり～」では、株式会社いんどり代表取締役 横石知二氏の「誰にだって居場所と出番があり、人は自分に役割があることが何よりもうれしい。」という言葉が心に響いた。

最後に、出張に行かせていただいた校長先生はじめ先生方に感謝を申し述べたい。また、本研究大会で学んだ「郷土への誇りをもち 人との関わりを深め たくましく生き抜く子どもの育成」を本校の取り組みに生かすことができるよう努める所存である。